

第5学年 社会科学学習指導案

2組 計24人(男子10人, 女子14人)

指導者 中 熊 信 仁

1 小 単 元 情報と社会

2 小単元について

(1) 小単元の価値

本小単元「情報と社会」は、小単元「放送局の働き」とともに大単元「わたしたちの生活と情報」を構成している。本小単元では、放送、新聞、電信電話などの産業と国民生活のかかわりについて調べる活動を通して、情報産業が国民生活の向上や他の産業の発展にどのような影響を及ぼしているのかを学習していく。そのような学習を進めていく中で、情報産業の役割や情報の有効な活用についても考えることができるようにすることをねらいとしている。

子どもたちはこれまで、農業、水産業、工業と、第一次産業、第二次産業の学習を通して、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解してきている。また、子どもたちの中には、これまでの学習において、新聞やインターネットの情報を課題の解決に効果的に活用している子どもも少なくない。子どもたちは、情報を活用する立場として、どのようにして必要な情報を入手し、それを生活に生かしているのかについて話し合ったり、情報の内容に対してどのように判断しているのかについて調べたりしていくことで、情報の有効な活用の仕方について考えることができるようにする。

これらの学習を通して、情報についての理解を深めることは、多種多様な情報が大量に様々なメディアを通して発信されている現代社会において、その情報の真偽を見極め、これらを有効に活用しながら、主体的に生きていくことができる態度を養う上で意義深いことだと言える。

(2) 小単元の目標

【◎は小単元の重点目標】

- 多種多様な情報の中から、自分にとって必要な価値ある情報を見分け、活用し、発信しようとする。
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- ◎ わたしたちの生活において、情報の有効な活用が大切であることを考えることができる。
【社会的な思考・判断】
- 情報に囲まれている自分たちの生活を振り返り、情報のもつよい点や問題点を調査したり、資料などを活用したりして具体的に調べ、分かりやすくまとめることができる。
【観察・資料活用の技能・表現】
- わたしたちの生活や産業の中で、情報をもつ働きや与える影響について理解することができる。
【社会的事象についての知識・理解】

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、全体的に社会科の学習に関する関心は高く、調べ学習や体験学習を通して、社会的事象に積極的に関わっている。また、調べて分かったことや感じたこと、考えたことなどをグループで協力してノートや新聞にまとめる作業に意欲的であり、そのような場において生き生きと取り組む姿が見られる。その一方で、学習問題解決のために追究の柱を立てて調べたり、調べたことを自分なりにまとめて発表したりすることについては、苦手意識をもっている子どもも少なくない。そこで、学習問題をつかむ場面では、子どもたちが調べる必要性を感じながら追究できるようにすることが大切であると考えられる。

本小単元に関する子どもの実態については以下の通りである。

【調査人数：24人 H17.9 重複あり ()の数字は人数】

- ア 普段の生活で、あなたが情報を得るために使っているものは何ですか。
テレビ (24)、新聞・チラシ (11)、インターネット (8)、友達や人に聞く (8)、本 (5)、ラジオ (5)、携帯電話 (1)、雑誌 (1)、漫画 (1)、ポスター (1)
- イ 今まで、どんな情報を得ていましたか。
天気予報 (20)、本やカード、ゲームの発売日 (12)、ニュース (9)、テレビ番組 (8)、映画の内容 (3)、調べ学習の内容 (3)、台風情報 (2)、食品の値段 (1)
- ウ あなたにとって知りたい情報がある時に、役に立つと思うものは何ですか。(三項目選択)
テレビ (22)、新聞 (18)、パソコンのインターネット (10)、本 (7)、雑誌 (4)、ラジオ (4)、携帯電話のインターネット (3)、固定電話のサービス (1)、その他 (3)
- エ 情報の便利な点と問題点は何ですか。

〈便利な点〉

分からなかったことが詳しく分かる (9)、正確に分かる (5)、多くの情報が取り出せる (4)、いつでもすぐに分かる (2)、分かりやすく教えてくれる (2)、事前に分かる (1)

〈問題点〉

インターネットは危険なサイトがある (8)、いろいろな情報がありすぎる (7)、間違った情報がある (3)、質問ができない (2)、ウイルスや迷惑メールがある (2)、台風などで停電になったら分からなくなる (1)、お金がかかる (1)

オ 情報を発信したことがありますか。

ある (4) …メール、掲示板書き込み

ない (20)

実態調査の結果から、子どもたちは、日頃からテレビや新聞などでいろいろな情報を得ていることが分かる。子どもたちの三人に一人は、家庭でインターネットを利用している。特に、天気予報やニュース、遊びに関することなどは、様々な方法で情報を入手し、それを生活の中で生かしていると言える。また、情報のもつよい点として、速さ、正確さ、分かりやすさという点について気付いており、更に、氾濫しすぎている情報で戸惑ったり、間違った情報で困ったりといった問題点にも気付いている子どもも見られる。その一方で、必要な情報の入手方法や情報量に個人差があったり、送られてくる情報に対して確かめることなく受け入れてしまったりする子どもも見られる。多くの子どもたちは、情報の発信者としての意識が十分ではなく、その経験も少ない。そこで本小単元では、子どもたちに身近で具体的な資料を提示し、子どもたちの興味・関心を高めていきたい。さらに体験活動や調べ学習を効果的に組み入れることで、どの子どもも意欲をもって、主体的に学習を進めることができるようにしていきたい。

本学級の子どもたちは、一人で考えながら学習するより、何人かの友達とグループで話し合ったり、考えたりしながら学習することに意欲的である。また、「学び合い」においてどんな学習効果が得られるかという問いについては、「いろいろな考えを思いついたり、自分とちがった考えを知ることができたりする」(83.3%)とか、「一人でするよりもいろいろな問題を解決できたり、解決できた時に一人の時よりもうれしさが大きくなったりする」(75.0%)と感じている子どもが多い。また、子どもたちは、本学級の学び合いに関しては、多様な学び合いの場は保証されていると感じている子どもが多いが、学習の中で学び合いの必要性、切実性を感じていない子どもも見られる。これらのことから、一人調べで活動が停滞しているときは、グループやペアでの学び合いの場を設定することで、より意欲をもって取り組めるようにしていきたい。また、子どもたちが学び合いたいという気持ちや意欲が高まるような教材を提示していく必要があると考える。

3 指導に当たって

本小単元の指導に当たっては、以下のような点に重点を置いて指導していきたい。

(1) 評価方法及び評価に基づく指導について

自らの疑問に基づいて調べた情報の特徴について、子ども一人一人がどのような認識をもつようになったかということについて、ノートやワークシートに書かれた子どもの考えを評価規準に照らして分析する。そして、次の話し合い活動において、どのような助言や支援が必要かを考え、活動の場を設定する。

(2) 個に応じた指導について

課題別に追究する場面では、新聞やラジオ、インターネット、電話などのメディア（情報媒体）を選択して、一人一人の子どもの興味・関心に対応し、その子なりの考え方や調べ方を保証する。また、その際、個々のよさについて、その都度取り上げて紹介したり、称賛したりする。

(3) 高めたい「学び方」について

ア 自分が調べ、考えたことを、その理由や根拠を明らかにしながら表現するとともに、自分が調べたメディアと、他のメディアの特徴との共通点や相違点について気付く。

イ 調べたことや話し合ったことを整理して、「情報活用ガイド」としてまとめる。

(4) 「よりよい学び合い」の場について

調べる場面では、自分の興味・関心を基に調べるメディアを選択し、自分の疑問に基づいて個々で調べるようにする。そして、それぞれに調べたものをメディアごとに発表し合うことで、お互いの考えの確かさを確認し合ったり、誤りに気付かせたりするなど、考えを補強・強化、修正させたりできるようにする。

さらに、それぞれのメディアについて調べた子どもたちを組み合わせるグルーピングし、ジグソー学習を取り入れることで、どの子どもも役割や責任をもてるようにする。

4 小単元の指導・評価計画（全7時間）

●は、本小単元における主な「学び合い」の場とそのねらい

※は重点評価項目

週	時間	主な学習活動	教師の指導	評価項目や評価方法																												
つかむ	1 本時 1/1 1	1 生活の中で出会う様々な場面において、わたしたちはどのように情報を活用しているか話し合い、学習問題を設定する。 情報を発信するものには、どんな特徴があるのだろうか。	○ 日常生活場面を設定し、どのようなメディアを活用したらよいかを考えるようにすることで、本単元の学習内容が子どもたちにとって身近なものとして考えることができるようにする。	○ わたしたちの生活と情報のかかわりについて関心をもち、自分なりの疑問や調べたいことを見付けることができたか。 【関心・意欲・態度】 (発表・ノート)																												
	調べ	2 【選択するメディア】 <table><tr><td>新</td><td>ラ</td><td>イ</td><td>電</td></tr><tr><td>聞</td><td>ジ</td><td>ン</td><td>話</td></tr><tr><td></td><td>オ</td><td>タ</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>ー</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>ネ</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>ッ</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>ト</td><td></td></tr></table>	新	ラ	イ	電	聞	ジ	ン	話		オ	タ				ー				ネ				ッ				ト		○ 自分の疑問や調べたいことに基づいて、メディアを選択することで、個々の考え方や調べ方のよさを生かすことができるようにする。 ○ 前単元「放送局の働き」での学習を生かしながら追究の柱を立てて調べるようにすることで、問題解決に必要な情報を効果的に収集できるようにする。	○ 自分なりの疑問を基に調べるメディアを選択して、学習計画を立てることができたか。 【技能・表現】 (ワークシート) ○ 前単元で学習したことを基に、調べ方を工夫したり、集めた情報を整理したりすることができたか。 【技能・表現】 (ノート)
		新	ラ	イ	電																											
		聞	ジ	ン	話																											
	オ	タ																														
		ー																														
		ネ																														
		ッ																														
		ト																														
1	3 メディアごとに、それぞれの特徴についてまとめる。 ○ そのメディアのよい点 ○ そのメディアの問題点	● それぞれに自分の疑問に基づいて調べた結果、分かったことを発表し合い友達と確かめ合うことで、それぞれの考えを深めていくことができるようにする。	○ 調べて分かったことを積極的に発表し、メディアごとの特徴をまとめることができたか。 【関心・意欲・態度】 (発表)																													
4	1	4 それぞれのメディアを調べた友達を組み合わせグループをつくり、そこで、導入段階で考えた生活場面での有効な情報の活用について話し合う。	● ジグソー学習を取り入れ、それぞれのメディアを調べた子どもたちを組み合わせるグループングすることで、一人一人が自分の調べた内容について責任や自信をもって話すことができるようにする。	※ 情報の有効な活用の仕方について、自分なりに考えることができたか。 【思考・判断】 (発表・ワークシート)																												
まとめる	2	2 5 話し合ったことをもとに、全体で「情報活用ガイド」をつくる。 6 学習を振り返って、情報がもつ働きや影響について話し合いまとめる。 7 小単元のまとめをする。	○ グループで話し合ったことを全体で話し合っ「情報活用ガイド」としてまとめることで、調べたことや話し合ったことの共有化を図るようになるとともに、問題解決の成就感を感じることができるようになる。	○ 生活において情報がもつ働きや、与える影響について理解することができたか。【知識・理解】 (発表・ノート・ガイド) ○ 情報の有効な活用について、これからの生活に生かそうとしているか。 【関心・意欲・態度】 (発表・ノート・ガイド)																												

5 本 時 (1/7)

- わたしたちの生活と情報のかかわりについて関心をもち、自分なりに疑問に思ったことや調べたいことを見付けたり、それを進んで発表したりしようとすることができる。
- 【関心・意欲・態度】 教師の言葉かけ () 予想される子どもの反応 () 重点評価項目 () ◆重点評価項目を受けての指導
- (2) 展 開

生活の中で情報を活用する場面を提示し、どの情報源を活用するかを話し合う。

天気予報という子どもたちにとって身近な場面を提示し、情報を活用することの必要性を感じさせよう。子どもたちが生活の中で必要な情報を得ることに役立つようにする。

生活の場面に設定をし、情報活用について考えること。生活の場面に設定をし、情報活用について考えること。生活の場面に設定をし、情報活用について考えること。

天気予報という子どもたちにとって身近な場面を提示し、情報を活用することの必要性を感じさせよう。子どもたちが生活の中で必要な情報を得ることに役立つようにする。

天気予報をテレビで見たい。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。

地震の情報は、テレビで見たい。でも地震の情報は、テレビで見たい。でも地震の情報は、テレビで見たい。

天気予報をテレビで見たい。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。

生活の中で情報を活用する場面を提示し、どの情報源を活用するかを話し合う。

天気予報をテレビで見たい。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。

天気予報をテレビで見たい。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。でも天気予報の時間は、テレビでも決まっている。